



高等学校巡回指導員のメッセージを紹介します！



## 1. 引継ぎが安心を生む～高校現場からの切実な声



巡回指導員として高校を訪問する中で、ある先生から次のようなお話を伺いました。



高校に「個別の教育支援計画」を提出した生徒は、入学後も大きな混乱なくスムーズに過ごせていることが多いです。一方、中学校からの引継ぎがなく、本人や保護者からも特に申し出がない生徒が、学校生活で苦勞したり、気がかりな様子を見せたりすることも多いと感じています。

この言葉は、小中学校で積み上げられた情報のバトンが、高校生活のスタートをいかに左右するかを物語っています。

### 初日から始まる「安心」

「個別の教育支援計画」やそれに相当する引継ぎ等があることで、座席配置や個別の言葉かけ、環境設定など、本人が落ち着ける配慮を初日から再現できます。

### 「見えない困りごと」への先手

事前の情報があれば、一見問題なさそうに見える生徒の「小さなサイン」にも、高校側は早く気づき、適切に対応することができます。

## 2. 「自分を知る」ための数年間の歩み



では、なぜ「個別の教育支援計画」等の情報があるとスムーズなのでしょう？ それは、単に「情報があるから」だけではありません。小中学校の数年間、先生方と一緒にこの計画を更新し続けるプロセスそのものに大きな意義があるからです。

### 自分の「得意・苦手」を客観的に知る。

「個別の教育支援計画」の更新を通じて、生徒や保護者が自分の特性を深く理解し、納得感のある進路選択をする助けとなります。

### 自分なりの「工夫」を編み出す。

苦手なことに対し、どのようなサポートがあれば力を発揮できるのか（例：視覚情報の活用等）を、生徒自身が試行錯誤しながら見つける過程を見守ることができます。

### サポートを受け入れる力を育む。

周囲の助けを前向きに受け入れ、「自分に合った学び方」を確立している生徒は、新しい環境でも自分らしくスタートすることができます。

## 3. 小中学校の先生方の取組が、未来を支える！

先生方が生徒本人や保護者との対話を重ね、書き込んでくださった「個別の教育支援計画」は、生徒が高校で「自分の力を発揮する」ための何よりの道しるべになっています。小中学校でのていねいな関わりが、高校での子供たちの笑顔に直結しているということが、高等学校巡回指導の現場からお伝えできるといいなと思っています。

